地球全圖略說 全

司馬江漢著

影地稀皇圖
更窺江漢瓦赤舄斗高垂好技
巧堂羔爲象之變法江船
笑圖垂之數楫勉掛衆左小爲
妙善爲象之圖工夫技垂圖
之實笑械之使用垂勢垂
之人略視宋蘇堂讀垂垂
垂法就矣切磋之法象考究

黒川真頼藏書
山田庵

文彩絢發刻之法乃不朱至
說以造之刻紫銅錦以永地
古觀古學不或棄近來回錦文
彩以裝坤輿之皇圖日新永以
義西刻之一暢而技字之元以
之銅旗詩朱之曰義方池桂實
是以承校璽詩國業之統務朱
心與言之以言詩志歌曰文彩

樣中出黃銅也漢武帝之所者
皇國新來物語來皇以降皇國
朱柱以前之所皇帝所用之盡
皇國鑄工之精巧西域所可
說者以皇子皇物其皇國狀小
而形國比所之集皇名物及語
意之名鐘小而聲明語之小
要加打正來嶽回者皇物摠皇

淡路人五郎兵衛 能く人
国時地典を好み博識多く
国加増を竺珍業能かく名を
騒ちを好み大平の御業味
ちや朱今業也国や甘酒西
国能未考を詳審ならんちを
校案文美国と魔魅日文人ち
を大誤ら朱之志ん之を朱曰

地毬全圖畧說

東都　江漢司馬峻著

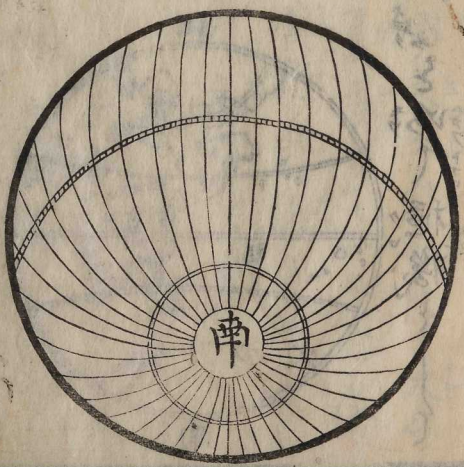
余繪事の餘暇和蘭船一来るごとの奇器畫圖の類を摹製せる當彼邦銅版の法を考索し已に諸圖を新製して人に示す近ごろ法を次て萬國乃圖を製せんことを思ひ彼西刻乃圖を得て是を摸寫し銅版刻せる頃其圖なるもの従来我國の人多く輿地總界のことを知者すくなく冀ハ

此圖を見て萬國の大なる事を知ーべんと欲せば其精詳の況きハ識者の校訂を俟ものなり只世の蒙生ん徒に授んやの微志をもて故に此畧說を附て其圖を照ーー見るに便をもたらむる事左のごとし夫天ハ茫ーとして際なく地もまた吹り取て測るべき物ふし仍て總體の繪るにて象るときハ則一の大圓となるもの其最實地を繪て圓なれバ地ハ天の正中にありて一乃至なり扨平地中に海と陸と有

てあるべし一の珠に畫かめ一四面皆國あらざる所あるその低き處は海河とし高き所を山嶽とし平なる所を田圃とし旦人の居所ゆえなり故に地よりて寒暖各異なる則其國土を分て五大洲と名け所謂亜細亜。亜弗利加。歐羅巴。亜墨利加。墨瓦蒲泥加。なり抑も天の總星の纏る所を以て恒星となし恒星にあらずして天の一面をなす時天の總運を降なり是を三百六十余に割合て此一を一度と云なり其天の三

百六十度を地より引合て地も亦三百六十
にわりて其一つゝ地の一度と定む一度
八日本里數凡三十里許あり
されど云ゞめく地ハ平面なるものにあらず
て圓なるを其廻を三百六十よ縦横ともに
割合て天の度と地の度れ数に當てまた
の大小を分て割けば平圓毬なる物を
平面に一旦半を分て二圖とも
實に地毬を器圖にうつす度数をしめす

一度(イチド)を三十里(リ)にして地(チ)の周廻(シウクワイ)一萬(マン)八百里(リ)ある



地毬を半を分て二圖とす

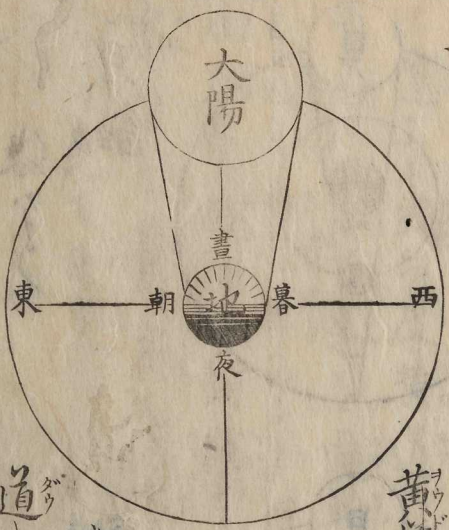
五大洲の畧圖

表

裡

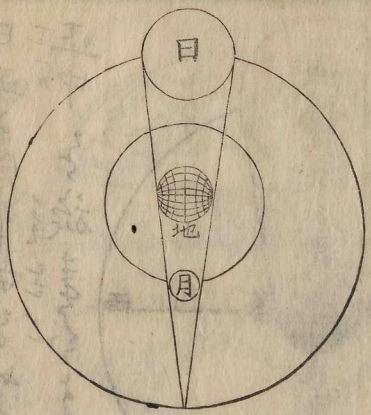
日地を周旋して南北極を以て樞機として東より西へ旋る日地に向ふ畫をなり

日に皆の昏夜をなす
日正の同一所をめぐらず春分秋分には天の
正中を旋まわること夏至まで一日に一度づゝ
黄道を北へ絡めぐりて又元の所へ至時秋分に
なり夫より南の方へ絡旋れ冬至となる
云則是を一年とす其日の旋線を黄道と名づく南へ出北へ

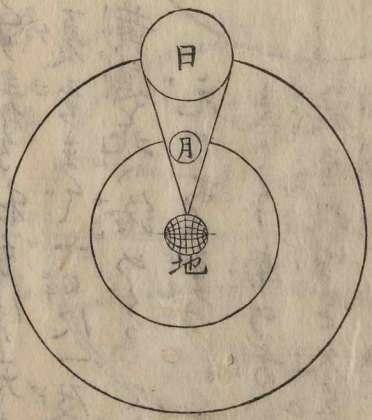


入ノ線ナリ

月蝕

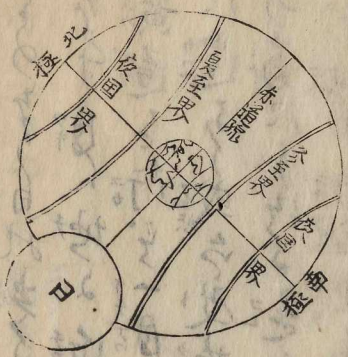


日蝕



月ハ一ツの水晶ノ玉のやうにて云々

ものなり日月光を受映し照して光を
なす月は地を近くめぐるゆゑに
黄道を行ぞ一月に十二度ゞ黄道乃南
に畳ある或ハ度ゝ黄道のゆる還又ハ度ゝ黄道
の南にうつる是を遊輪といふ日を同ふして旋
ゆゑ故に行合重なるゆゑに日餘ありて又
日月乃間に地球隔て月地のあかり
塞られて月の光を失ふゆゑ月缺ると
同理見てさとるべし



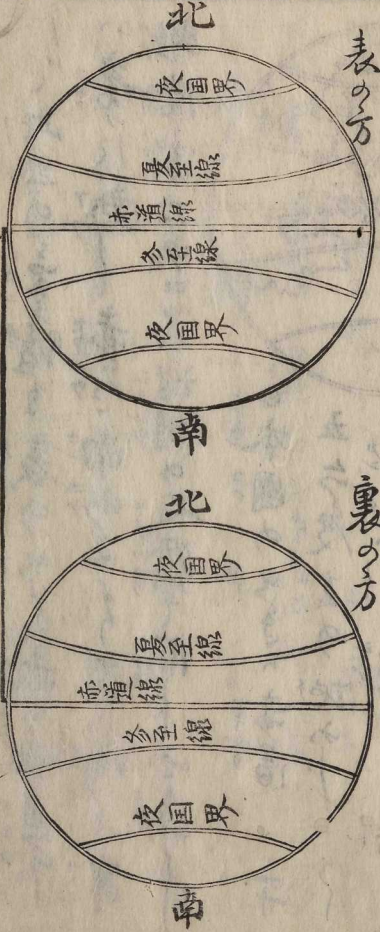
此日本支那等ハ亜細亜の地にして寒暖時ニ依異なり則日本のごとく北極三十六度よりそ是をさすといへども南極ハ又三十六度地平を下るゆへ此図ハ日本支那の地とよなくそ

南極北極ともに天を平半に分てその正中
を赤道と名づけ此赤道乃直下なる諸
国は春夏秋冬の順なく日天頂を行事
なく日南の暑夏至にひとしく遍常あり
冬月なく人物多く賤く躯體にて單
衣をはなつ日本の寒月は堪がたきを我
邦の夏月のめし堪がたきも甚乃熱国
なれば物産多く五穀一年に二三度も耕
草木は葉おちず食物乏かるず五ウロウハ
諸州の人まで此諸国へ船を通じ其物産

を交易すること数百年余先年長崎に遊ぶの時彼熟国ジャガタラ地方の人を見る則世に云ふ崑崙奴なる人物賤く顔色日に焦るるが如く黒くして真黒ふいふぞ蘭人の奴僕となりて来る此ジャガタラ近きも赤道直下なれば熱気強く此方位よりも一ンデヤ海なりと

日本のごとき国なるゆえに暖気にして雪降ることなし又奥州の方南部津軽の地しかの

方へ頃て有前蝦夷ゟ初て積雪山も
ゟて夏日ハ一塩にて寒暖を分
事ハ



アメリカ大洲も此日本の裏にあたる國にて此圖のごとく背も表のごとく赤道直下に當たり熱く赤道より南ゆくほど漸く寒氣を增すこの諸島およびヨウロッパ諸州の人民開けゆく

日本國のごとき赤道を三十五六度南の地にあり赤道より隔たること遠くして異なり支那の南京は日本の肥州と同じく奥州は奥州

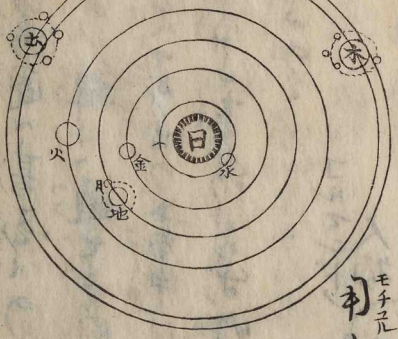
假令ひしばらくのあいだよりてヨウロウパ
諸州の寒暖此度の線を推て知べし
○此界より北の方日輪の及ざるの地よりて
夜は氷海と云春ころより早天のめぐ
夏至に至りて晝をなせど此時よく晴
を候ふる事も日上に旋ずして地よりて
周轉秋ころに則日暮ふしてまた日出
ふ至の時夜の子れ刻のごとし
春ふよるまで却とふを此國近ころて
ヨウロウパの諸州の人開ず鯨猟をして產

業〳〵ヨウニコールも則此海の産ある処極南の地にして亦南極の方も是と同じ
○エウロツパ諸州 モスコビヤ。ポログ子。アルヘ子。フランス。ヨランダ。イギリス。等の地い寒ゝ月多く夏月サヽ故に米穀を産せざるナトリヤ。トルコ。の地乃めぐまい日本のごとく暖と同じきを
の西ハ地中海へ出て小ハ太湖を界として甚悪辨用の地にて世界の寶吾國にあるを
詳らかに總てエウロツパ諸州へ萬國へ渡して交易をなして第一の國務とされば先

天文地理を明らめ究る事を專に勉
むるより且は海船通行の爲なれば量地の
術もつとも賴むより彼國の書にゼー・スピイ
ゲル〳〵る書ありゼー」は海鏡スピイゲル」
は鏡〳〵る言にて則海鏡と云る事
にてまづ船を乘るの要術にして南
北極の高低と海中の深淺を計積もる
事を書いたる書なり爰にまづ
めて兩極は南北の樞機みづから動ざる
故よく小乃方の諸州に渡り附北極の高低

をもて地を経り界ると羅針をもて南
北をさだめ天の度をもて地の度を定るが
如く地の度数を定て而後萬國の方位と
海陸の参差を地毬に割つければ目下
に是を見る事しかも古来天地
の説いまだ天の正中にいでて日月天を旋
回し雖然として不動の説あり其理数を窮
るに又多年西洋の人乃説く所日を正中にあり
て地は天を旋回し一乃世界かしこを此地
を中心として旋五星もまた皆一の地こと説ける

其全象を器に制して「ヲルレイ」と名づけ
図説ハボイスと云る人の書中にもつまびらかに載
あり余深く此理と考へ覚て此器を新製
せるもこれあり此説甚新奇のものなれど窮理の
利人にうすからず虚妄の説と云ず
此図ハ日ハ天の正中にありて地月及五星の旋る
線を示す日ハ地を三百六十倍大なりと云説あり
全図の垂れ糸ハ経緯の審かなる天球図説と共に



却て其國の言語各異あり故に其國の辭に通ぜざれば其物の名を知ること能はざるを以て諸書中に奇言精說あるべきも讀む事あたはず唯畫圖の形を見て推量あるのみ

コルマンドノ人物

熱國人物ノ圖ス

赤道直下ノ人皆如此

茲に五大洲萬國の方位と其國土を況んや。
豈啻ならんや一言を誌す。先にジョウガラヒイという書を
翻譯する龍橋矣泰西圖說の選ぶ所ろ月池公
萬國圖說を編集ら且其端を開して率本之
○歐羅巴大洲中○入尔馬尼亜ドイツランドと云南の方ハアルペス山あり
東にあり匈加里亜に接ードナウ河にある此大河曲折して
太湖ふ流る事八百里日本ノ里程北ハ第那瑪尔加にて海なり
都城を「ウヰヘンナ」と「ドナウ」河に傍古ロウマ帝をこた
徙此都廣大美麗にて大城ろ城外に寺院ろ又四五
丈の塔ろ皆「アラビヤ」の名を以築アラビヤハ亜細亜中ニアリ百余年ふりに

「都尓箇」多く大に破ると雖も「伊斯巴尼亜」「拂郎西」察「諳入利亜」等十年ならずして再興せり就中「英吉利」ハ「帝勢」衰て其郡縣と各鎮寺と此國天文窮理の学を以て歐羅巴洲此國を雪す

○莫斯可未亜を「モスコウ」と云ふ其則都城の名にして其國の總名を和蘭ゝハ「リユスヤ」と呼「リユスヤ」轄轄「ルシヤ」と和蘭の人ヲのまゝ呼なり亦「魯西亜」と云ふ圖中に黄色に彩る東ハ亜細亜の大韃靼に連り北ハ冰海とちぎる西ハ「ラフランド」及雪際亜南ハ「都尓箇」に至此國古ハ愚民にして理を不弁亜祝のおしへを学ひ

「ピイテル帝」そて天文窮理の學を施し二世女帝の時より大に化今にそ其政法を繼此國森林曠原にして山少く土壌肥饒の米穀を出し牛羊を以て食其都「モスコウハ大河の傍に帝城を繞郭周十四里日本ノ里程石或土を以築洛外に五百寺院を「ハルヽグヲ」「ハルヽグヲ」及「諳入利亜」和蘭おの寺院をぞ○阿蘭陀此國の總名と「ヲランデー」云ふ「ヲランデー」「諳入利亜」を跨南に「入尓瑪尼亜」より古ハ十七州也今ハ十州にして「ホルランド」「ヨイトレキト」「フリイスランド」「ヨーフルエイゼル」「グロウニンゲン」「ゼーランド」「ゲルデルランド」より南にして日本の九州ほど「船」を以て世界萬國に交易を通ず都府を「アムステル」と云

○伊斯把泥亜ハ「ピスカー」海西ハ「波尔杜瓦尔」南ハ「キブラ」の峡を隔て「亜弗利加」の大洲「セウダ」より東ハ地中海を跨む「コヨルペ」島「エイヒカ」島に向ふ凡四十度ばかり実に多くの南岸は波濤暗礁多くして航海の危険多く船を泊する処に乏し民の気を視察し良智の者を選び教を施し事を図り務めて「亜墨利加」及諸洲に属国多く「亜弗利加」大洲の中「バルバリヤ」地の多く属せり「伊斯把泥亜」の都城を「マトリヤ」と云ふ大美麗を作れり

「波尔杜瓦尔」此地「伊斯把泥亜」の西より左都城を名て「里西

波亜(パア)〜ニ其國大ナリ〜ト雖モ西南ハ「亜太蘭海(アトランゼ)」ヲ隔テ「亜弗利加(アフリカ)」ト對シ東ハ「亜細亜(アシヤ)」大洲ノ中「印度(インデ)」帝亜海島及「亜墨利加(アメリカ)」大洲ノ中「銀河(ギンガ)」ノ邑ヨリ水路ヲ以テ「伯羅西兒(ブラジリイ)」ノ地ニ交易ノ館(クワン)ヲ設(モウケ)ム

○掃郎西(フランス)察(サツ)ノ都城ヲ「パリース」ト云(イフ)都(ミヤコ)大ニシテ城郭(ジヤウクワク)ノ周(メグリ)日本ノ里程ヲ以テ十里余(ヨ)「和蘭(オランダ)」ノ隣(リン)ヲ辛度(カラド)ヲ以テ寒月多ク春(ハル)ヨリ夏(ナツ)ニ至(イタ)ル迄(マデ)ハ必(カナラ)ス雨(アメ)ノ勝(スグレ)時計(トケイ)ヲ多ク奇器(キキ)ヲ製(セイ)ス

ユルヨリ「イギリス」ノ「ロンドン」ニ次(ツヅ)ク「伊斯波亜(イスパニヤ)」ト「ペイレネイセ山」トノ間(アヒダ)ヲ東ニ「レイン河」ヲ流(ナガ)レ「入尔馬尼亜(ゼルマニヤ)」ヲ南ニ「葡萄牙(ウイセルタンド)」及ヒ「亜尔白西山(アルベス)」ヲ以テ「意多里亜(イタリヤ)」ニ隣(リン)シ北ハ海ヲ隔(ヘダ)テ「諳厄利亜(イギリス)」ト向(ムカ)ヒ

○意多里亜此地ハ「アルペス山」ヲ以テ北ノ界トシ南ハ地中海ニ出テ都城ト「ロウマ」ヲ又「ヘチヤ」ト「テリアカ」ト云ヘル地中海ニ属セリ西ハ「亜爾西加」及「サルニイン」其余中央ノ多クハ穀類及果子又奇石ヲ産ス

○藤ホ爾狼徳此国「仏郎西」ト入爾馬泥亜トノ境ニ南ハ「アルペス山」ヲ以テ「意多里亜」ト隔テ此地モ亦山多クシテ地ニ傍シ大湖ヲ二ツ有リ長サ二里二ツ長三十二里日本ノ里程ニ又「レイン河」ノ源ヲ此河属曲シ「和蘭」ノ小海ニ注ク此邦今ハ大国ノ属国ニシテ「獣類」魚ヲ出ス

○波羅泥亜ハ「フロイセン」及「バルチヨウ海」ヲ以テ南ハ「翁加里亜」ノ界トシ都城ヲ「カラユス」ト云来ル事ヲ以テ大小麦ヲ出ス

山塢を出でゝ又大河より水を受く「ニイペル河の源より此の
窩海に注ぐ」奇木或ハ銅漆半馬を産す
○弟那瑪尔加南に入ハ瑪尼亜に連ル海ゟ「雪際亜」
向ふ都城と「コツペンハーガー」ゟ
○諾尔勿入亜尔「雪際亜に連リ山ゟ」塢ゟ亜南海ゟ「氷海」
○雪際亜「スカンジナヒイ」南ハ「弟那瑪尔加」に係ゟ湾て西ハ「ルチヲ
の海湾」ゟ「ラフランドの白海に至る都城と「ストツグホルグ」ゟ
「海国」「フユヲンの二島此ゟ属ゟ
○「ウエ皮狼徳」ハ白海を除南ゟ方ハ地連ゟて「ヨマが湖の色より
「汶斯箇未亜に係ゟ此ゟ氷海と隣ゟる加ハの方ゟ人民

の一家數百を飼養して食とする人物良く之を馴
○ベルウンランド小極寒不毛の國にして別
「歐羅巴の北洲より云ひし下等の民類なり」
油と爲す其肉を食用に
○冰國「爹那瑪尓加の人祝出して屬せしむる冰海
多くあつて獵具と食とし皮或は
○ノウルにンラ○火山「莫斯可志亞の人百年前より
を國治める少人口の人物小にして文字
○新加里亞の「カルパチセ山を以て「波羅泥亞に境を要す「入尓瑪
泥亞より北王戻るに今ハ都尓格に屬す

○ブルガリヤ　都尓格　南ハ狭小ニして東西ハ「ドナウ」河ニ界ヒ
流て大湖ニ注ク西ハ「アルベル」ノ山脈ニ界ヒ北ハ「ワラキア」ニ接シ
亜細亜大洲ノ西「亜細亜」都尓格ノ属ス都城ハ「コンスタアピル」ト云ヒ
尓格帝ノ大城ニして美麗ニ富ミ地中海ノ大湖ニ入ル峡口ニ在リ
物産金銀銅鉄等ノ鉱ヲ出シ此地海岸ニして法朗西ノ便用紙
ヲ製ス○ギリイゲンハ「ブルガリヤ」ニ接シ南ハ地中海ニ出ル「亜細亜」大洲
ニ「亜弗利加」大洲ノ高西ニ勿獨葉海ニ「アルベル」海ニ「カチヤ」ノ
余島皆「都尓格」ニ属ス小島「ロデスハ」「カンチヤ」ノ東ニ在リ古ヘ港ヲ
鋼人所ヲ守ル「小韃靼」及「アラビア」大湖ノ中ニ「莫斯可」
ヲ亜ノ属国ニして百般手ヲ「都尓格」ニ仰ク主都ハ海岸

にありて便用無き事を

○大貌利太泥亜此国の都城を「ロンドン」と云南東に掛郎察と和蘭に接して両水海に臨む幸度余の地にして家居多く殊に此都まことに美麗を極る事「欧羅巴」洲に勝れり城の外に殿閣楼台そこの数つづく「テユムス」河洛中を流る河の名称て掛る長さ三百二十間余橋を人家甚のく建衛ふ市と云和蘭齋にこゝろれ叶ふ名ある奇巧世界第一と云

○亜細亜大洲を「アジア」都魯八の方太洲と隔「アフリカ」接す中堺海

○那多里亜の地を亜嘩皮亜と云東南の両紅海隔てを地僅な連亜弗利加大洲のさゝやきて「エゲプテン」の地とわかつ三イラス此土乃産

にして西里阿(サイベリア)の古墳陵(コフンリョウ)の類多く
玉を以て葬(ホフ)りし物(モノ)多し「ニイラ」なり(サンキロニベルグといふるカビタン著書中に図説と有る)
○大韃靼(ダーダン)圖(ト)は紅(アカキ)を以(モツ)て彩(イロトリ)りしの名(ナ)の總称(サウシヤウ)にて氷海に
至(イタ)る西(ニシ)は「没斯菌(モスコビヤ)」亜(ア)につぐ広(ヒロ)き方(カタ)サスカ、地(チ)にして日本(エゾ)
海(ウミ)に接(ツラナ)て隣(トナリ)をなし南(ミナミ)は砂漠(サバク)のごとく満州(マンジウ)サンタン支那(シナ)
安南(アンナン)、應帝亜(インデヤ)に接(セツ)し地(チ)廣大(クワウ)にして邦(クニ)と都府(トフ)にて多(オホ)く
平原(ヘイゲン)深林(シンリン)にして獣(ケダモノ)多(オホ)く大河(タイガ)あり車(クルマ)のごとき
馬(ウマ)に駕(ノ)りて没斯菌(モスコビヤ)亜の人は来(キ)て貢(ミツギ)をなす
「モスコヒイ」タルタリイと称(シヨウ)す「ヨロシヤ」亜(ア)にても亦(マタ)の名(ナ)あり
「ヨトモ」「アラカンカル」及(オヨ)び「ヘリイ」南の方(カタ)は「ボルガリヤ」「ヤスタラカン」部城(ブジヤウ)と云

殊ニ小ノ方ハ人物蕃昌ス

○支那ノ内ノ方ハ皆里城外リヨウトウ谷洋ノ中ニ地ヲ占ル支那ニ
属ス西ノ方安日河ヲ以テ帝亜ニ境ヲ東ノ海ヲ隔テ日本ト
向天ノ都城ヲ中ニ有ル

○帝亜帝亜ハ即天竺ノ天眞目兒ト云都城ヲデルヤト称ス
南ノ接スル地ヲアラカニ ヘゴウ シヤム マラカヌ ベンカラ コラマンドル及コル
マンドル海辺ニ在ル錫蘭島ヲ此地霊鷲山ト仮ニ称ス
舎ヲ千間四面ヲ堂ヲ石ヲ以テ建奇絶ヲ此島中ニ
デルデスヲ小島甚多シ海花ヲ出ス多数一年ニ両度
鞘ヲ結ブ実ヲ未熟ノ時ニ煮テ食ヲ結ブ周程ヲ食品ヲ

○巴尔齊亞ヲ「ペルシア」帝亞ニ譯シ西ニ「亞細亞」都ル始メ小アジヤト隣シ廣大ノ地ニシテ古ヨリ國ヲ建ルコト十五六千回數ヲ知ラス世界ノ最モ古キ國ト云又生物ヲ産スルモ

○歐羅巴海ヲ「ヨーロッパ」各利「ギリシア」普通ニ古ノ地ヲ云ヒ湖椒及丁子伽羅多犀ヲ産ス○ホルヌヲ○セレベス○ギボロ○ミシタノ○ハラバウ

○天竺國此地甚タ熱ク人物黒シ

○天竺國此地甚タ熱ク人物黒シ

ニ沒海岸ニ生ス頂ヨリ藤ヲ垂ルヽヲ「フリイゲブリユ」ト呼ヒ金銀極メテ乏シク「ヨーロッパ」ノ人奇珍トスル金ノ數ヲ知ラス但蝦色ヲ鎮ムノ方ハ「都魯古」ヲ指シ東亞ヲ「ヨーロッパ」及奇物ノ産出ヲ言ヒ

C亜弗利加大洲ハ北の方地中海と歐羅巴に接し西紅海をへて亜細亜中の「アラビヤ」に連なり西ハ亜太蘭海に対し南ハ印度洋にて三面水に環まれる甚だ大の洲にして凡そ百有餘の都邑あり著名の處中に名貝を鎖せる東ハ西紅海に注ぐ此地「エチヨピヤ」と名とアビシニヤ此邦佛教弥行はれて回教も亦盛んなり象駝及牛馬を産し異獣奇鳥多しと雖も并タベル「アヤ」ソコトラ海の諸島を除の外地中海を隔の地と「ヒロプテン」日多くして人性穏理を好み天理を明らかにして都城に全殿楼閣と建築石を以て積み重ねて造り歐羅巴洲の人是を奇観とす此地一大河あり地中海の源と出て

平地ヨリ及ソ一丈余三十目ヲ経テ乾ヲ後テ穀ヲ種ニ必ス要ル者
殿ラス霹靂ヲ西ノ方ヨリ石ノ如ク巴尔巴利亜ヲ小ノ峡ヨリセウ
ダラム歐羅巴大洲ノ中「伊斯把泥亜ノギブラルノ峡ヲ渡ル
僅ニ白望ヲ埠海ノ潮ヲ呑吐スルヲ以テキブラル灘ヲ
云海中岩石多ク船ヲ覆ヘシ東ノ方ヨリ次第ニ熱
利亜ヲ大邦ヲ称ス土民愚鄙ニシテ未ダ化セス「伊斯把泥
亜ノ人渡テ交易ヲ為ス「亜古羅山ハ世界第一ノ
山ヲ「亜ト羅海ヲ海中「孤ナル島アリ此島ヲ亦西ノ
物産ニ乏シ「巴尔巴利亜ノ地及ヒ島伊斯巴泥
亜ニ属ス

○南北亞(アメリカ)「グイヤナ」より又南の海(ウミ)を「カアプテグーデ
ホヲプ」より此所に居(ヲ)ること凡(およそ)三百里(リ)の波海(ナミ)の使用(ツカヒ)と
なす○馬拿莫太巴(モウターバ)「カツフリア」「ラゲアバル」及「ダスカル」嶋(シマ)より
○亞墨利加(アメリカ)大洲(シウ)の日本(ニホン)支那(シナ)の裏(ウラ)にあるを以(もつ)て東(ヒガシ)
亞(ア)と稱(シヨウ)す○廣大(クワウダイ)の地(チ)なり二百九十年(ネン)前(マヘ)歐羅巴(エウロツパ)洲(シウ)
の「アメリカア」と云(いふ)人開闢(カイビヤク)する所(ところ)より新世界(シンセカイ)と云(いふ)
赤道(シヤクダウ)を去(さる)こと凡(およそ)一千五百里(リ)の地(チ)一狹路(イツケウロ)のごとき地(チ)あり
○新(シン)「ハイスパニヤ」西(ニシ)の方(かた)歐羅巴(エウロツパ)大洲(シウ)にある伊斯把尼亞(イスパニヤ)
の屬(ゾク)にして地(チ)を墨(メキシコ)「墨是哥(ヒコ)」と呼(よび)今(いま)もて
ハ[illegible]を國(コク)を建(たて)大(おほき)なる都會(トクワイ)の地(チ)を墨是哥(メキシコ)と稱(シヨウ)する

人を喰ふ事も全く草木禽獣の如し日本いまだ知らず

○勿羅利它(フロリダ)の内方海を隔て向の地にて二年度々寒暖時を変ずるの風土にて人物都(ヒク)て愚にして盗(クヌスミノミコト)み心(イヤシノオロカ)卑しく奪ふ事を以て自ら誇り人倫の道を知らざるを土俗(ジンミン)の常とす

○ブラシリイ此地広大無辺にして歐羅巴(ヨウロツパ)大洲中の「ホルトガル」より開きしの後其の金銀(キンギン)を産(サン)する事を聞て人物を多く此(コト)に集りて毒蛇(ダイジヤ)の類にして又東方の地にはあらざる鰐(ハタカ)と云て為に害を被る事甚し(キセキ)或は獣(ジウ)骨魚牙(コツキヨゲ)を以て為(カザリトス)飾(アタ)を設(コロ)して

祭禱剛勇ニして人を喰ふを常とす食

○テウラアラフランド此地「歐羅巴」大洲ニて亦の白海に傍の地ラフランドの人隣ありて「モスコビア」都邑と分ち雖奥を專ら「グルウンランド」秋冬氷海ニうづまく訳

○カルホルニヤ西よりかぶりにあり東紅海よりハ海ニうづまく

○ニグロ大南ノ喙にして黒地ニうづまく人物文楽大人國と云ふ是を

○新墨瓦嘴泥加大南方ニうづまくメカランカと云ふ人初て視出ニうづまく又南「亜墨利加」の南喙を「ノウメガランカト云ふ

○新和蘭及新「グイヨヤ」ニうづまく

氷海夜國（ヒョウカイヤコク）
卧兒狼德（グルウランド）之人物（ジンブツ）

男（ヲトコ）

女（ヲンナ）

胡泥可兒（コニカル）奴ハ北海（ホッカイ）ノ産（サン）ニシテ鯨魚（ゲイギョ）ノ類（ルイ）ナリ

余う模製する地毬萬国の図ハ西洋の人齎
し来る銅刻の図よりて精妙深くうがち
る諸国の地名ハ彼国人の文字をもて記せるゆ
ゑ通ずる者鮮し故におのれ吾國の假名に譯す
といへども人の字体ざる名のミ多くまじりて混
雑するゆゑ見る者こゝろ惑ふことを思ひ一國
州ごとの諸名及小島或ハ港浦の名等を闕く
大國の名のみを記せり尤全図狭小なるゆゑ
其詳ならざるハ地球の参差ハ西刻
の図ふ倣一凸一凹をも畧する事あるゆゑ

唯著ものゝを記し專五大洲萬國の方位を
ふゝむ移す嘯晉陽馬氏命をうけて
司天墓中の地毬を補ふ故ふ馬氏に請て
再地名を訂正して巻ふ加る事ふうう

寛政癸丑春正月

春波樓藏刻

地毬全圖畧説終